

2015年度

事業報告書

鎮西学院本部

鎮西学院幼稚園

鎮西学院高等学校

長崎ウエスレヤン大学

学校法人 鎮西学院

長崎県諫早市西栄田町 1212 番地 1

学 院 本 部

2015年度鎮西学院本部事業報告

◆鎮西学院の2015年度の校勢

2015年度鎮西学院は、以下に示すような建学精神と組織の基に、組織決定を行い教育事業を遂行してきた。

2015年度の校勢は、どうであったのか。少子化に伴って、高等学校と大学で生徒・学生数の減少を見た。それに伴って学院全体の財政が悪化した。校勢の縮減である。

これに対応する形で「鎮西学院経営改善計画(5ヶ年計画)」と学院全体から選出された構成メンバーを中心に「鎮西学院運営協議会」を設置した。幸いにも「鎮西学院経営改善計画」は、文科省の認定を受けて、5ヶ年に亘って同省から財政支援をうけることになった。但し、毎年、同省による精査がおこなわれる。確実に、改善計画が遂行されねばならない。

幼稚園は、基督教保育の伝統と実績が地域に評価され、安定的な運営がなされているものの園児数の減少には、僅かとはいえ歯止めがかからない状況である。但し、「ひかりの会」を中心に幼稚園を守る組織は強固である。

高等学校は、市内の他の私立高校や公立高校からの激しい追い上げに苦しんでいる。女子サッカー部・男子バレー部・陸上部・卓球部の活躍は、目を見張るものがあった。進学でも国公立・有名大学への合格率は誇るべきものがあった。一般進学コースから国際基督教大学への合格は、喝采すべきである。就職でも公務員100%合格を記録した。運動部の重点化と教師間の学び合いの強化は、重要な課題として残る。

大学は、全国区のため依然として学生数確保に苦勞している。ただし、それを補うものとして主としてアジアの提携校からの学生が増加している。日本語コースを中心に留学生の拡大を図り、財政赤字の補填の役割が期待される。学長の指示で、留学生を含め学生たちが地域に入り、日中韓の他国語版観光マップ制作等、地域の国際化に大いに貢献している。諫早市社会福祉協議会をはじめ、地域や産業界との連携のもと、多様な地域活動を展開している。就職率も90%台を記録した。大学院の進学は、主として留学生を中心に有名国立大学院に合格している。学生数確保のための実学中心の学科再編は、喫緊の課題といえる。まさに、大学存立に係る問題である。

学院全体として、財政的には、校勢は、縮減しつつあるが、学校別にみれば、一定の教育的な校勢は、保っていたといえるであろう。「鎮西学院経営改善計画」を中心に、財政・教育活動ともに校勢拡大を求めて行く必要がある。

鎮西学院は、基督教を基礎に置く教育機関であるから、形式ではなく教育の中身に「愛の教え」が、更に生かされなければならない。心の面でも、充実した校勢の拡大を計らなければならない。

◆建学の精神

敬天愛人を基として、キリスト教精神に基づく人格教育を行い、品性高潔なる人格の育成をもって社会と世界に貢献する。

この建学の精神に則り、長崎ウエスレヤン大学、鎮西学院高等学校、鎮西学院幼稚園を運営する。

◆2015年度 学院目標聖句

「苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生むということを知る」

ローマの信徒への手紙 5章 3-4 節

◆設置する学校等及び入学定員(2016年4月1日現在)

○長崎ウエスレヤン大学 現代社会学部 定員 140名

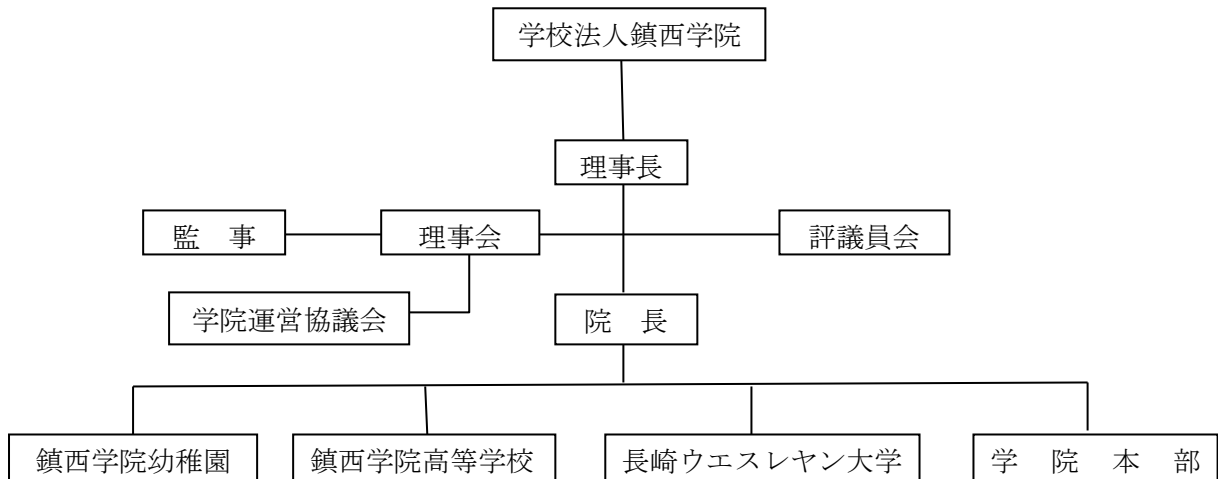
社会福祉学科 50名 経済政策学科 50名 外国語学科40名

○鎮西学院高等学校(全日制課程) 定員 300名

普通科 200名 商業科 100名

○鎮西学院幼稚園 収容定員 140名

◆学院組織



■ 理事会開催状況・主な審議事項

- | | | |
|-------------|-------|--|
| ・2015年5月28日 | 定期理事会 | 2014年度決算（案）、監査報告 |
| ・2015年6月17日 | 臨時理事会 | 理事・評議員の選任
理事長の選任
銀行当座貸越契約期限の延長 |
| ・2015年9月25日 | 定期理事会 | 鎮西学院経営改善計画書の策定
常任理事会を改組、学院運営協議会を発足
個人情報保護規程の改正（マイナンバー対応） |
| ・2016年2月12日 | 定期理事会 | 鎮西学院創立135周年記念事業
学長の学部長兼務
幼稚園園則の一部改正
給与並びに退職金規程の一部改正 |
| ・2016年3月29日 | 定期理事会 | 2015（平成27）年度補正予算（案）
2016（平成28）年度事業計画
2016（平成28）年度予算（案） |

■ 評議員会開催状況・主な審議事項

- | | | |
|-------------|--------|--|
| ・2015年5月28日 | 定期評議員会 | 2014年度決算（案）、監査報告 |
| ・2016年2月12日 | 臨時評議員会 | 高等学校講堂の耐震補強及び改修 |
| ・2015年3月27日 | 定期評議員会 | 2015（平成27）年度補正予算（案）
2016（平成28）年度事業報告
2016（平成28）年度予算（案） |

■ 聖書塾の開催 ※2015年度は学院教職員だけでなく、教会信者や近隣の人の出席もあった。

金曜日 18：30～20：00 7回開催

7月17日、9月18日、10月16日、11月20日、1月15日、2月19日、3月18日

鎮西学院幼稚園

1. 教育目標・経営方針

(1)教育（保育）の基本方針 ～子どもたちの瞳の輝きがここから生まれます～

幼児期における教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであることを基本とする。このことを踏まえ、次のことを重視して教育（保育）にあたった。

○幼児の「**主体的な活動**」を促し、幼児期にふさわしい生活が展開されるようにする。

○幼児の自発的な活動としての「遊び」は、心身の調和のとれた発達の基礎を培う重要な学習であることを考慮して、「遊び」を通しての指導を中心として、次の5分野 ①健康 ②人間関係 ③環境 ④言葉 ⑤表現 のねらいが、総合的に達成されるようにする。

○幼児一人一人の特性に応じ、発達の課題に即した指導を行うようにする。

※これらの教育活動を通して「**知・体・社**」の3つの生きる力を育む。

(1)「知」…「知識」と「知恵」

・子どもの興味の対象を豊富にするため、人、もの、生き物、自然、文化という大切な要素を基盤に、幅を狭めず、豊かな経験を設定する。

(2)「体」…「体力」と「運動機能」の発達

・全身を使う大きな動きから、手先や足先を使う小さな動きまで、子どもは生活の中の遊びで、いろいろな動きを身につけていく。

・意図的計画的な遊びをとおして、体力や大きな動き、敏捷性、器用さを育くむ。

(3)「社」…「社会性」

・子ども同士の個性がぶつかり合う遊びの中で、ルールを守ったり、我慢したり、譲りあったりするなどの、「人間関係力」とも言える社会性を育む。

(2)教育目標（保育のこころ） ～保育の原点がここにはあります～

①「キリスト教の教えの中で、人を思いやり愛ある心を育てる」

・キリスト教の精神に基づき、キリスト教保育を柱として、感謝と人を思いやる心を育む。

・子ども達と教師が「感謝」と「思いやり」を基盤とした祈りで、毎日をスタートする。

②「自然に恵まれた環境の中で、のびのびと遊ぶ」

学院を包む広大で緑豊かな自然の中で感性や創造性を育て、『幼児は遊びで育つ』という理念の下に、計画的、創造的にのびのびと育てる。

③「家庭的な温かい雰囲気の中で、ゆっくりと大切に見守る」

・全ての園児を、全ての教職員で見守り育む。

※めざす園児像

- ・ 祈る子
- ・ のびのび遊ぶ子
- ・ けじめのある子
- ・ 思いやりのある子
- ・ のびのび表現する子
- ・ 挨拶のできる子

※めざす教職員像 『澆刺と ざっくばらんに 計画的に』

- ・ 常に笑顔で、澆刺と園児や保護者と対する教職員
- ・ どの子ども愛さずにおかない教職員 どの子ども伸ばさずにおかない教職員
- ・ 年間、月間、週間の見通しを持ち、計画的に実践する教職員（今年度の重点）
- ・ 同僚と協力し、共に研鑽に励む教職員

(3)経営方針

「園児一人一人が、保護者と共に生かされる幼稚園」

- ・どの子ども、未来に生きる、かけがえのない存在である。
- ・幼稚園は、園児と教職員、教職員と保護者との信頼関係の上に成り立つ。
- ・子どもは、教職員の自己変革・向上心によって、よりよく変容する

(4)努力目標

①計画的実践

○全ての行事の起案を ～個人力から組織力へ～

個人の力量には限界がある。みんなのアイデアが出せる場と時間的余裕を確保する。

○協議等の時間確保のため、毎日の終礼（連絡会）を改善

- ・月、水、金は連絡会。
- ・火・木は、行事等の協議を行う職員会議 B、園内研究、現職教育を行うこととした。

○週案、業務記録の提出 … 第2、4火曜日

新たに担任の週指導計画（週案）及び用務の業務記録を書くこととした。

②教職員研修を充実

- ・保育者の研鑽を積むことで、より良い保育の実践が展開される。
- ・出張研修のみならず、2014年度より研究テーマを設定し「園内研究」を行っている。

※2015年度園内研究テーマ…『学院の環境をもっと知り、楽しもう』…2014年度より継続

③キリスト教保育を充実させている

- ・保育室での礼拝で毎日祈りをもってスタートさせ、「感謝」と「思いやり」の心を育む。
- ・保護者に理解してもらおうよう、ピースチャペルでの「親子礼拝」、「クリスマス礼拝・祝会」等を充実する。

④広大で緑豊かな学院全体の活用

- ・学院の広大で緑豊かな自然環境の中で、「心と体の健康」を育む。
- ・「学院内遠足」を実施し、学院内を散策し、野球グラウンド外野芝生で活動する。
- ・「どんぐり拾い」・「梅ジュース作り」・「探検ごっこ」・「散歩」など、多様な活動を行う。
- ・高校グラウンドでの「運動会」、大学西山ホールでの「クリスマス礼拝・祝会」、寮前広場でのキャンプファイヤー（年長お泊まり保育、卒園生夏の集い、親子夏の集い）の実施。
- ・高校敷地に開墾した「芋畑」で、親子畝づくりと苗植え、芋ほりを実施。

⑤園だより・クラスだより・フォトレターを毎月発行

- ・月々のカリキュラム（教育課程）や園・クラスの様子を「園だより」や「学級だより」、写真を多数載せた「フォトレター」により知らせ、保護者との信頼関係を構築していく。

⑥園長室だより「子育て談話室」の発行

- ・保護者と園がともに子育てについて語り合える機会づくりと、子育てのヒントを提供するため、2013年12月より発行し、全世帯に配布している。

⑦遠足の充実

- ・4月の歓迎親子遠足は、鎮西学院高校の大型バスに協力いただいて現地まで行く遠足を実施。
- ・広大で安全な敷地を利用した学院内遠足を年数回実施。

⑧「園長タイム」の実施

- ・かな文字につながる「ことば遊び」や集団行動など、小学校につながる要素で実施。

⑨学校評価の実施

- ・教職員による自己評価を実施し、教育の目的と内容を再確認し、改善を推進。
- ・毎月の保護者役員会で、行事等についての具体的な評価をいただき、園運営に反映させ、「開かれた園づくり」として、「安心と信頼の構築」を図っている。

2、施設、設備及び環境整備

(1) 園児送迎用ミニバス（ワゴン車）の購入

- ・2台の園バスのうちワゴン車の「ミニバス」が古くて修理が続いていた。園児の安全確保のため、新たに購入した。

(2) 園庭整備の推進

①砂場及び泥遊び場の整備充実を図っている。

幼児教育の中で泥遊び・砂遊びはとても重要なもの。定期的な砂場の清掃はもちろん、梅雨時はテントを張るなど、年間を通して利用できるようにしている。

②遊具の美観と腐食防止のため、園庭内遊具のペンキ塗りをこまめに実施している。

③園庭美化のため芝を刈り、緑の美しい園庭を保持する。

- ・緑の芝生の上で子どもたちを素足で遊ばせる。

(3) 園舎老朽化への対応

- ・築46年の建物である（1970年1月10日落成式）
- ・建替えも視野に入れた大きな検討課題である。（→「5. 学院内検討会議の設置」）

3、危機管理

- (1) 子どもの生命、健康を預かっている使命感を持ち、学期ごとに全職員で安全点検する。
- (2) 園児の避難訓練を、年間を通して実施。（各学期2回、年6回実施。不審者、火災、地震）
 - ・とくに不審者対策では、正門前の運行部にも応援要請している。
- (3) 夜間、休日の防犯管理は警備会社に委託し、警備体制をとっている。
- (4) 不審者対策の道具『ネットランチャー』『さす股』及び『ガス噴射器』を設置している。

4、園児募集対策

『 園児数の推移 』

2001年度（平成13年度）	83名
2002年度（平成14年度）	93名
2003年度（平成15年度）	92名
2004年度（平成16年度）	94名
2005年度（平成17年度）	80名
2006年度（平成18年度）	77名
2007年度（平成19年度）	64名
2008年度（平成20年度）	72名
2009年度（平成21年度）	106名
2010年度（平成22年度）	104名
2011年度（平成23年度）	109名
2012年度（平成24年度）	106名

2013年度（平成25年度）・・・95名

2014年度（平成26年度）・・・104名

2015年度（平成27年度）・・・107名

園児確保の最大の力は、在園児保護者や家族の評価・評判が最大の広報となることを日々肝に銘じながら、以下の取組を行う。

(1) 広大で緑豊かな学院全体の活用推進

鎮西学院幼稚園最大のアピールポイントである。前述の努力目標④を展開する。

(2) 外注弁当に加え「パン給食」の導入

・2014年度より、新たに週1回「パン給食」を希望制で導入。給食の日数を増やしてほしいという要望があったことに、こたえたもの。

(3) 未就園児と親子のつどいの推進（オープンキャンパスの一環）

主任主導で、子育て支援として楽しいプログラムを充実させ、募集にも結びつける。

・月3回程度「おひさまくらぶ」（2歳以上対象）実施。

・学期毎に1～2回「グリーンクラブ」（1歳以上対象）実施。

(4) 行事の充実と保護者会（ひかりの会）との連携推進

・キリスト教行事は元より、日本的な行事をはじめ多様な行事の充実に努める。

・保護者の参加型行事を計画し、幼稚園への理解・協力を深めてもらう機会とし、幼稚園の活性化にもつなげる。（親子歓迎遠足、親子礼拝、親子で楽しむ夏の夕べ、親子で芋畑の畝づくりと芋苗さし…）

・ミニ講演会の開催

お母さん方に子育てに役立つ講演を提供する。子育てを考える機会とし、子育て仲間として共に語り合える関係をつくる。

(5) 預かり保育の充実

・仕事をしておられるお母さん方への子育て支援の一環として保育者2人体制で実施。

・夏期休暇中に長崎ペンギン水族館及び大村野岳水辺の森公園への遠足を実施。

(6) ホームページの完全リニューアルによる情報提供、宣伝活動の充実

・2014年2月にホームページを完全リニューアルした。

・本園の特色を具体的にアピールするために、日常の保育活動の様子をこまめに発信する。

・インターネットによって幼稚園を検索する保護者への、貴重な広報とする。

(7) 教職員研修の充実

・前述のような園内研究、現職教育に加え、外部研修に参加し伝達研修をすることで、教職員の研鑽を積む。その実践が保護の信頼、満足感へとつながり、園児確保の基盤となる。

5、学院内「検討会議」の設置

・2015年度から「子ども・子育て新制度」が発足した。この制度にどのように対応していくか検討するため『幼稚園新制度・検討会議』を、2014年度に設置し協議している。

・メンバーは、次のとおり。

院長、事務局長、総務課長、会計課長、園長、幼稚園主任

・今後この会議では、新制度への対応をはじめ、**園舎の新築または増改築**、職員体制、園バスの購入計画など、**これからの幼稚園の中・長期のあり方**を検討する。

鎮西学院高等学校

2015年度 鎮西学院高等学校事業報告

I 教育の充実

(1) 建学の精神の推進とキリスト教教育の実践

- ① 2015年度目標聖句「艱難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生むということを知る」が与えられ、2015年度が神によって導かれ、生徒および教職員が希望をもって1年間の歩みを終えることができた。
- ② イースターに、在校生から受洗者が与えられたことは、他の生徒によい影響を与えると同時に、教職員にとっても大きな励みとなった。
- ③ 近隣の牧師先生方の協力を得、特別礼拝や宗教講話日礼拝を守ることができた。このことは生徒や教職員にとってもよい刺激になった。2014年度に引き続き、「年に一度は教会へ」という目標を立て、生徒や職員に教会の礼拝に出席を勧めてきたが、前年度に比べ出席者が減少しているため、地区の教会との連携をさらに強化していく必要がある。また、2014年度より学院行事として実施している「鎮西学院聖書塾」への高校教職員の参加があまり見られなかったのは残念であった。
- ④ 物故職員記念礼拝、1年生修養会、創立記念礼拝、学校クリスマス等の宗教行事を通して、鎮西学院の建学の精神である「神を敬い、人を愛する」ことを学ぶことができた。2015年度の創立記念礼拝では卒業生の牧者を迎えて礼拝を行うことができたことは大きな喜びであった。
- ⑤ 被爆70周年にあたるこの年、多くの犠牲者を出した被爆当事校として、平和大行進等積極的に平和教育に取り組む活動を行うことができた。
- ⑥ オープンキャンパスやPTA総会時に簡単なチャペルを実施することにより、地域住民や中学生に本学院の建学の精神をピーアールする機会とすることができた。

(2) 学習指導・進路指導の充実

- ① 2015年度の進路決定状況は、九州大学、横浜国立大学、広島大学、熊本大学、長崎大学、山口大学、長崎県立大学、国際基督教大学、青山学院大学、明治学院大学、明治大学、関西学院大学、西南学院大学、長崎ウエスレヤン大学等国公立大学合格者は31名（3年連続合格者30名以上）で、私立大学は合格者138名の好成績であった。就職関係では国家一般職、警視庁、長崎県警、刑務官、自衛官等の44名の公務員合格（前年度と同数）や、一般企業に関しては三菱・日立パワーシステム等内定率5年連続の100%を2015年12月中に達成することができた。2015年度の特徴として、一般進学クラスから公立大学6名合格やキリスト教同盟校への進学者が増えたことが挙げられる。

進路実現に向けて生徒と教職員が一丸となって取り組んだ結果である。

② 資格取得状況

英語検定 準1級 1名、2級 16名、準2級46名、3級 81名
漢字検定 2級 3名、準2級 9名、3級 12名

PC 検定 準2級 13名、3級 125名

- ③ 2015年度の長崎ウエスレヤン大学との高大連携プログラムにおいてゼミ訪問を実施し、長崎ウエスレヤン大学に対する関心を高める努力をしたが、内部合格者は25名（前年度比+5、NHK 学園本協力校2名含む）であった。

(3) クラブ活動の充実

2015年度長崎県高総体ではサッカー部女子が優勝旗を獲得し、インターハイにおいて全国3位と学院始まって以来の大快挙を成し遂げた。また、2015年度新人戦では、サッカー女子、卓球女子、バレーボール男子、駅伝男子が優勝し2016年度長崎県高総体に大いに期待できる結果を残してくれた。

3月東京で行われた第20回全国私立高等学校男女バレーボール選手権大会「さくらバレー2015」において、本校男子バレー部が全国第5位の成績であった。また吹奏楽部が九州吹奏楽コンクール県予選、九州マーチングコンテスト県予選において金賞を獲得し、マーチング部門において九州大会出場を果たした。

(4) 生徒指導の充実

- ① 2015年度は、前年度に比べ生徒指導上の問題行動で特別指導を受ける生徒が少なかった。全教職員の共通理解・共通実践を基本とした指導体制の確立を図ってきた結果である。ただ、全体集会、学年集会、授業で注意があっているにもかかわらず、ネット上に個人情報や写真を載せてネットパトロールからの連絡で指導を行うことがあった。
- ② 元気のよい挨拶の励行に努めた。
- ③ 校内の美化、教室内の整理整頓がなされておらず、注意連絡をすることもあった。マナーの向上、校内の美化、教室内の整理整頓については、次年度も継続して実行していきたい。
- ④ いじめや体罰についての研修会を行い、安心・安全な学校作りに努めてきた。今後も他校の取り組みを参考にするなど、一層充実した研修を行っていきたい。

(5) 学校力の強化

- ① 目標設定・自己申告制度の定着化を図ることにより、教職員の意識改革につなげることができた。また、教職員からの学校活性化への提言はほとんどが建設的なものであり、今後も現場の改善につなげていきたい。教職員に対する面談を実施することにより（教頭対応）管理職とのコンセンサスを図る機会となった。
- ② 学力診断テストスタディサポートのデーターを基に、業者による校内研修を実施した。これにより生徒の実力確認と今後の対応策を図ることができた。2014年度より、スタディーサポートの伸び率の高い生徒には励みになるよう全校で表彰を行ってきたが、年々表彰者の数が増えている。
- ③ 基礎学力向上を図ることを目的に全校で学び直しの学習システム「マナトレ」を実施して3年目になるが取り組みも徐々に定着し、学力の底上げがなされている。まとめテストや認定テストでの不合格者に対しては学年会と基礎学力向上委員会が協力し、放課後の時間を活用し学習指導に当たってきたが、学習参加者が前年

度の2倍に増加するなど、意欲的に学習に取り組む生徒が増えてきた。

④ 2015年度生徒異動状況

転入4名 転出5名 休学2名 復学1名 退学5名

昨年度の転出12名・退学21名と比較して、今年度はいずれも大幅減となった。

(6) 国際交流の推進

- ① 姉妹校であるアップルビーカレッジとの交換留学（2名派遣、2名受け入れ）、ロータリークラブ等との交換留学（1名派遣、1名受け入れ）を実施した。
- ② これまで異文化を理解して受け入れることのできる人間を育てることを目的に、海外修学旅行（シンガポール、マレーシア）を実施してきたが、生徒や保護者のニーズに応える形で、2015年度は旅行先をオーストラリアと台湾の二班に分けて実施した。生徒・保護者の評判は概ね良好であった。

(7) P T A・校友会との連携

- ① 体育祭、文化祭、市民クリスマス等の学校行事や私学振興大会にも積極的に参加していただくようはたらきかけた。今後も常に開かれた学校として、保護者が気軽に授業見学、相談ができる体制を整えていきたい。
- ② 県下7地区において地区P T Aを実施した。保護者会では多くの意見や要望が出されたが、出席した教職員の誠意ある対応により保護者との信頼関係を築くことができた。
- ③ 長崎からの平和大行進や予餞会時の豚汁会には、校友会の方々にも積極的に参加していただき、有意義なひと時を過ごすことができた。

Ⅱ 生徒募集対策

- ① 学則定員300名に対し、37名減の263名の入学者であった。科、コース別では普通科国公立大学進学コース△15名、同一般進学コース+23名、商業科△45名となり、商業科は2年連続2クラス編成となった。
- ② 要因については、受験生は昨年とほぼ同数であったものの、近隣公立高校の併願受験者の不合格者が前年同様に低水準であったこと。特に併願受験者の多くを占めていた、公立進学校2校（諫早、西陵）および公立実業系3校（諫早商業、諫早農業、大村工業）と諫早東、大村城南の不合格者が133名（2015年度入試158名）に減少したことが実入学者数に反映することとなった。

Ⅲ 施設・設備整備の充実

- ① 陸上グラウンドバイパス側部分の整備（490万円）
- ② パソコン92台入れ替え（1000万円）

長崎ウエスレヤン大学

学校法人鎮西学院 長崎ウエスレヤン大学 2015 年度事業報告

1. 教学改革の進捗状況と産学官連携の推進

1) 大学機関別認証評価結果

Reborn NWU 4年目に当たる2015年度は、大学機関別認証評価の年であった。評価の結果、長崎ウエスレヤン大学は、日本高等教育評価機構が定める大学評価基準に適合していると認定された。

特に、「優れた点」として、教育課程及び教授方法において、「多様な『モジュール学習プログラム』の中核となる『コアモジュール学習プログラム』を導入し、初年次教育である『FIRST プログラム』や『コミュニティサービスラーニング・プログラム』等を開発することにより、教育目標の達成を図っている点は高く評価できる」と評価された。

いっぽうで、「改善を要する点」として、定員割れに関する事項、理事会運営（決算手続き）に関する事項が挙げられ、特に入学定員の確保を最優先事項とし財務基盤の改善が求められたほか、参考意見として保健室の運営に関する事項、自己評価・体制に関する事項が挙げられた。

※長崎ウエスレヤン大学自己評価報告書、日本高等教育評価機構による評価報告書は、インターネット上に公開している。詳細は以下のWEBページを参照のこと。

<http://www.wesleyan.ac.jp/about/disclosure/#a06>

2) カリキュラム改革の進捗

2015年度より、教育・学習支援プログラムをアクティブ・ラーニングの観点から再構築し、学生の主体的・能動的学習の習慣づけと、多様な体験と学びをキャリア形成・自己実現へ統合する力を育成することを目的として、積み上げ型モジュール学習プログラムによる学部教育へと大幅なカリキュラム改編を開始した。

また、基盤教育センターを新たに設置し、初年次教育プログラム「FIRSTプログラム」と全学必修のコミュニティサービスラーニング・プログラムがスタートした。

【2015年度 コミュニティサービスラーニング・プログラム開設・受講状況】

	プログラム名	サイト名 (会場・関連機関等)	受講数
1	GGLC:Games and Gamification with Learning Community	学内、まちづくり研究室、長崎県内の学校等	11
2	B1 グランプリに参加して、食をとおしたまちづくりを知ろう	大村あま辛カレーうまか隊	2
3	韓国と五島の先進的地域コミュニティを知ろう	慶南情報大学、五島列島ファンクラブ	4
4	県央の地域産品を使った新ブランド開発	長崎県中小企業家同友会諫早支部、白雪食品、チョコー醤油他	3
5	学童保育支援	ほくしょうクラブ、わんぱくキッズ、西諫早クラブ	4
6	「風の舎」ピアサポート活動	NPO 法人ウエスレヤン・コミュニティカレッジまちなか相談室「風の舎」	6

7	県央地区の食 歴史と未来	諫早、高来、多良見、小長井、森山、飯盛、雲仙、島原、南島原、大村地区、食育アドバイザー、食生活改善推進員等	17
8	包括的福祉活動体験プロジェクト	児童施設、高齢者施設、特別支援学校、障害児・者施設、病院、大学及び地域行事	21
9	地域づくりの学びと実践	長崎市式見地区の市民団体(四季美・ノマド)	3
10	交流さんぽ会	大学周辺、大学施設内	23
11	ICT スキルサポートプログラム	長崎ウエスレヤン大学内	3
12	こどもの城プレイリーダー事業	諫早市こどもの城	3
13	福祉教育関連企画支援プロジェクト	長崎ウエスレヤン大学、長崎福祉教育研究会	12
14	Country Day Support Program	インターナショナルカフェ	6

3) 全学的キャリア支援体制の成果

初年次からの一貫したキャリア支援プログラムの強化の結果、2015年度卒業生の進路達成状況は、以下の通りとなった。

【就職・進路実績】

- 就職率 92.6% ※2014年度 89.3%, 2013年度 83%
就職者 63人 ※就職希望者 68人/卒業生 88人中
(内訳) 一般企業 41人 福祉関係 19人 教員(高校) 2人 / 県内 55人 県外 8人
- 学科別就職率 ※カッコ内は前年度就職率
社会福祉学科93.8%(87.5%)、経済政策学科100%(90.0%)、外国語学科75.0%(91.7%)
- 福祉関係国家資格合格率 ※カッコ内は全国平均
社会福祉士 合格者数 7人 合格率 41.2%(26.2%)
精神保健福祉士 合格者数 4人 合格率 57.1%(61.6%)
- 主な就職先: 長崎市消防局、JR九州、三和中央病院、西諫早病院、ネットヨタ長崎株式会社、ANA福岡空港株式会社、長崎空港ビルディング株式会社、藤村薬品株式会社、JA長崎せいひ
- 進学先(大学院): 鳴門教育大学大学院、長崎県立大学大学院、筑波大学大学院、九州大学大学院

【資格取得支援】

- 情報処理関連資格 CS検定 ワープロ部門:3級 23人合格・同2級 3人合格
表計算部門:3級 7人合格
- 英語教育 TOEIC(IP) 受験者数:43人(昨年度52人) 最高スコア:935点(昨年度930点)

【就職活動支援】

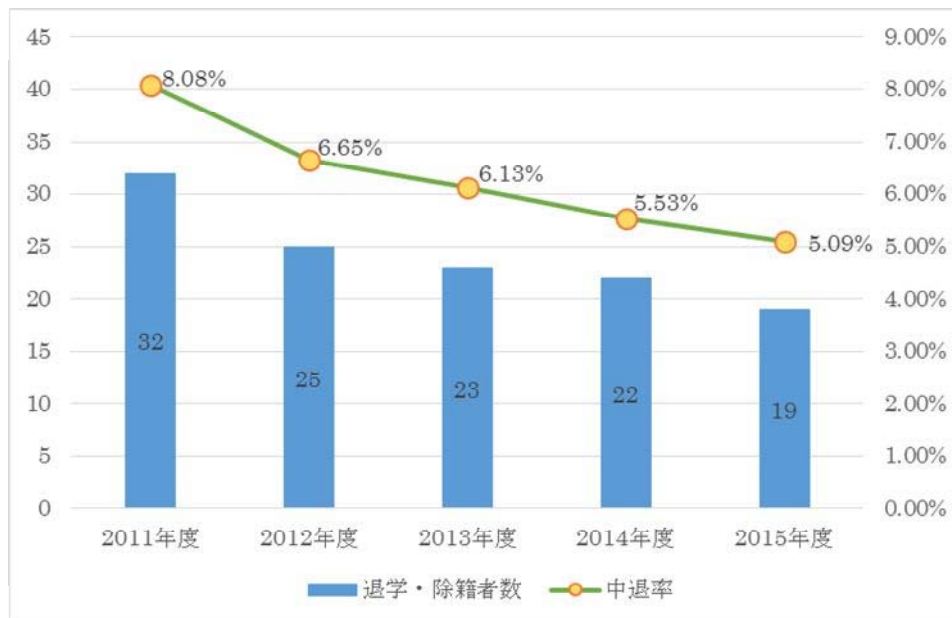
- 個人面談 4、3年生共に相談件数が増加(昨年度243件)
4年生(在籍 103名):438件を実施(学生1名平均4.25回)
3年生(2017卒:在籍97名):97件の面談(学生1名あたり約1.0回)

- エントリーシート・履歴書の添削、面接練習
- 合同企業説明会引率(バス運行し教職員が引率。バス車内で合説の歩き方を確認。企業説明会后「訪問企業振返り」をさせ、その後の活動をフォロー)
- 「就職ガイダンス」開催
前期 7 回、後期 8 回の講座にのべ 209 名が参加(出席平均 13.9 名)
全 15 回の内 9 回を外部講師に委託(自己理解・マナー、メーキャップ、就活サイト活用、仕事研究、エントリーシート実践、グループディスカッション、面接実践、合説歩き方)。また、中小企業家同友会 諫早支部長を招き、営業職について講話いただいた。
マイナビ主催で就活直前対策講座を 2/19 に学内で開催。全学科へ周知徹底し、27 名出席。

4) 中退予防

スクールソーシャルワーカー、学生支援課、学生委員会を中心とした一体的かつ総合的な学生支援体制のもと、中退予防に取り組んだ結果、退学・除籍者は昨年度よりさらに減少した。

【退学・除籍者数と中退率の推移】



5) 地域連携・産学官連携への取り組み

大学全体のプログラムを体系的なキャリア・職業教育プログラムへと再構築する基盤として、産業界、行政・団体との包括的協定締結に積極的に取り組んできており、2015年度は新たに諫早市社会福祉協議会と連携協定を締結した。

こうした取り組みのもと、島原半島の観光地域づくり事業の一環として、インバウンド対策事業、社会人学び直し・生涯学習事業等、国・市・各種団体の委託事業を受託した。

特にインバウンド対応事業では、本学学生(留学生含む)の参加も多く、プロジェクト学習や体験学習の機会となった。

【地域連携・産学官連携に関する協定等締結状況】

協定内容	締結先
(2015年度締結)	
諫早市社会福祉協議会連携協定	諫早市社会福祉協議会
(2014年度締結)	
雲仙温泉まちづくり協定	雲仙温泉観光協会、雲仙旅館・ホテル組合
産学地域連携包括協定	長崎県中小企業家同友会諫早支部
包括的連携に関する協定	長崎県市町村行政振興協議会
まちづくり協定	諫早市、長崎総合科学大学
(2013年度以前締結)	
まちづくり協定	小値賀町(2004年～)

【2015年度 受託事業一覧】

調査・事業名	委託元	金額
平成 27 年度「成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進」事業 “長崎発 観光地域づくり人材育成のための社会人学び直しプログラムの構築”	文部科学省	21,127 千円
世界遺産周遊マップ制作・印刷業務	南島原市	400 千円
雲仙市観光振興事業(小浜温泉インバウンド対策事業)小浜温泉観光協会 会員飲食店メニュー翻訳・監修業務等	小浜温泉観光協会	300 千円
Discover Nagasaki 海外留学生生活情報発信事業	長崎県観光振興課	2,175 千円
諫早市議会基本条例の検証及び議会運営のあり方に関する調査業務	諫早市	100 千円
まちづくり研究室・生涯学習室の運営	諫早市	—
計		24,102 千円

6) グローバル化への対応

引き続き、キャンパス内での国際交流、交換留学や海外CSPなどのプログラムへの学生の積極的参加・参画を促し、「国際的に有為な社会人」に必要なシティズンシップを養成する機会を多く設けた。従来のタイ、フィリピン、カンボジアにおける海外CSP、スタディツアーに加え、韓国提携校の留学生を対象とした1か月の超短期プログラム、長期インターンシップ生の受け入れを行った。また、アジア5地域(韓国・中国・台湾・マレーシア・日本)の大学間交流協定をMOUを交わし、海外長期インターンシップの実施に向けて協議が開始した。

2015年度は、海外協定大学として新たに、山東職業外国語大学(中国)、富川大学(韓国)、BURTON AND SOUTH DERBYSHIRE COLLEGE(イギリス)と交流協定を締結した。

2. 学生募集・広報活動の状況

1) 学生募集活動

2016年度の学生募集においては前年度より増加はしたものの、目標数値には届かない結果となった。出願者の入学率もアップはしているが、学院内入試の数字がそのまま反映された結果であり、その他の入試においては前年並みという厳しい結果である。

- 社会福祉学科は、センター利用入試が増加により、昨年度入学者数から微増となった。国家資格取得を目指す傾向が強く、前年度までの国家試験合格率の評価が高かったことが増加の要因であろう。
- 経済政策学科は、学院内入試の増加が好影響となり、全体数も増加。高校生のニーズを捉え、第一希望で本学を受験する学生を増やすための方策が必要である。
- 外国語学科の入学者数は昨年と同様であったが、学びの魅力や本学の特色を最大限に発信し、出願者増へとつなげたい。外国語に対する興味を持った高校生も多く、英検等の資格取得にも積極的である。資格特待制度を前面にアピールし、県内外の出願増につながる広報活動に努めたい。
- 留学生募集も前年度とほぼ同様の推移であり、依然として短期留学生が中心となっている。特に3年次に在籍する短期留学生から4年次にそのまま編入する優秀な留学生が増加傾向にある。

2) 広報活動

- 特色のある教育研究活動や学生活動の情報発信に取り組み、SNSでの情報拡散を実践している。ビブリアバトルなどの活躍もあり、『ウエスレヤン』の認知度も高まりつつあるが、浸透するまでに至っていない現状がある。
- 各種イベントへの積極的な参加により、地域交流を継続的に実施。今年度は諫早市中学生の英語スピーチコンテストに教員を派遣し、中学生へのアプローチも試みた。今後は小中学生への働きかけも必要である。
- 昨年に引き続き、高校内でのガイダンスに大学教員を積極的に派遣し、高校生に対し専門性の高い講義を提供。本学に対する印象を深め、進学への動機づけをはかるとともに、高校教員に対する大学アピールを継続的に実施。校内ガイダンスと会場ガイダンスは、高校生と直に接触できる貴重な時間であるため、大学の魅力、他大学との違いを十分に伝えたい。

3. 財務

1) 財務目標の達成状況

中期経営戦略Reborn NWU(2012-16年度)は、計画最終年度の2016年度における黒字転換が目標であり、計画4年目の2015年度決算では、教育活動資金収支差額が黒字転換し、大幅な改善が見られるものの、目標達成には及ばなかった。

2) 大学改革の成果(文部科学省 私立大学改革総合支援事業 選定状況)

2015年度は、前々年度に引き続き、タイプ1「建学の精神を生かした大学教育の質向上」(選定率48%)に加え、新たにタイプ4「グローバル化への対応」(選定率51%)に選定された。

この補助金により、eラーニング環境整備の一環として学内無線LAN等の整備、学外活動用動画教材作成システム、学生貸し出し用タブレット端末等の整備を行った。

※私立大学改革総合支援事業：「大学力」の向上のため、私立大学等が組織的・体系的に取り組む大学改革の基盤充実を図るため、経常費・施設費・設備費を一体として重点的に支援される。

3) 中期経営改善計画の策定

「中期経営戦略Reborn NWU 2012年度～2016年度」を定め、計画最終年度の帰属収支差額において黒字に転換することを期して教学改革を中心とする学生募集に取り組んできたが、計画4年目にして、目標達成の見通しは極めて困難であると判断し、1年前倒しで、改めて学校法人全体の経営・ガバナンス強化の観点から、新たに「学校法人鎮西学院 経営改善計画」(2016～2020年度)が策定され、理事会で承認された。この計画は、日本私立大学振興・共済事業団の特別補助「経営強化集中支援事業タイプB【経営改善型】」として選定された。

4. その他の主な教育研究活動

<2015 年度累積 GPA 学年別平均>

	年度	1 年	2 年	3 年	4 年
平均	2015 年	2.49	2.3	2.45	2.49
	2014 年	2.37	2.19	2.5	2.35
最高	2015 年	4	3.84	3.84	3.81
	2014 年	4	3.84	3.76	3.79
最低	2015 年	0.08	0.27	0.06	0.81
	2014 年	0.1	0.08	1	0.66

<学長賞・成績優秀賞>

学長賞・・・卒業時に4年間で卒業要件を全て充足し、かつ累積 GPA が 3.50 以上の上位の者、若しくは学期毎に、20 単位以上を修得し、かつ累積 GPA が 4.0 以上の者
2015 年度前期・・・2 年生 1 人、2015 年度後期・・・4 年生 1 人

成績優秀賞・・・学期毎に、20 単位以上を修得し、GPA が 3.50 以上の者

	1 年	2 年	3 年	4 年
前期	11 人	14 人	7 人	1 人
後期	5 人	8 人	3 人	5 人

<障害学生の在学状況>

聴覚障害学生	肢体不自由学生	その他	計
0 人	3 人	4 人	7 人

<地域連携>

NICE キャンパス コーディネイト科目「長崎県央地区の食 歴史と未来」全 15 回
実施時期；2015 年 10 月 7 日～2016 年 2 月 3 日 毎週水曜 18:00～19:30 開催
一般市民受講者数；のべ 280 人

科目等履修生の受入状況

前期・後期 計 15 名（スピーキング、英語コミュニケーション、中国語入門、発達心理学等）

※日本語教育プログラム受講生を除く。

<高大連携関連事業報告>

鎮西学院高等学校との高大連携について、「高大連携講座」に年間を通して取り組むとともに、昨年度に引き続き「ゼミ訪問ラリー」を実施し、ゼミの雰囲気を感じてもらい、大学教員や学生との交流を図ることで、本学への理解を深めてもらうことができた。

また、九州福祉系高校教員研究セミナー、高校生福祉大賞コンテストを開催し、高校における進路指導の動向や、高校生の進路選択についての調査研究、高校生を対象とした福祉啓発事業を継続して行なった。

<学術研究>

個人研究費の配分状況

2015 年度の個人研究費については、財務逼迫の折、昨年同様 150 千円の配分となった。

地域総合研究所共同研究費の配分状況

研究代表者	職位	共同研究課題一覧
斐 瑠俊	教授	産学連携による職業実践的な教育プログラムの開発
加藤久雄	准教授	旧大村領から五島列島への潜伏キリシタンの集団『移住』にともなう墓制の研究
銭坪玲子	准教授	主体的学修プログラムにおける、学びのための評価システムの構築
村岡則子	准教授	教育と臨床の協働による医療ソーシャルワーカー養成の実践的取り組み ～循環型教育システム構築とその有用性の検討～
佐藤茂春	准教授	法と非合理的楽観性の相互作用を考慮した法制度設計：理論と実験

科学研究費助成事業の獲得状況

2015 年度の科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）は、新規採択 1 件、研究分担金はなしであった。

また、2015年度の科研費申請件数は8件であった。

科研費総額（2015年度）

直接経費	間接経費	計
1,400千円	420千円	1,820千円

<体育系部活動の主な成績>

クラブ名	大会名	結果
バレーボール部 (男子)	九州大学春季バレーボールリーグ(鹿児島)	3部5位
	九州大学秋季バレーボールリーグ(熊本)	3部2位

バレーボール部 (女子)	九州大学春季バレーボールリーグ(長崎)	6部6位
	九州大学秋季バレーボールリーグ(福岡)	6部6位
	長崎県大学女子バレーボール大会(長崎)	6位
卓球部	全九州春季卓球大会(熊本)	男子シングルス・ダブルス出場 久米克昌・古川裕也
	全九州秋季卓球大会(福岡)	男子団体4部Bリーグ4位 男子シングルス・ダブルス出場 久米克昌・西山優輔・古川裕也
軟式野球部	Exciting Baseball トーナメント in 熊本	優勝
	Exciting Baseball トーナメント in 長崎	7位
バスケット ボール部	長崎県フープリーグ 2015	出場(プレイオフ出場)5勝2敗
	第68回長崎県バスケットボール選手権大会	1勝1敗
	長崎県大学バスケットボール選手権	2勝1敗
体操競技部	第63回九州学生体操競技選手権大会	女子個人総合 第3位 寺田葉月
	第65回西日本学生体操競技選手権大会	女子個人総合 第41位 寺田葉月
	第69回全日本学生体操競技選手権大会	女子個人総合 第33位 寺田葉月
硬式テニス部	九州学生テニス連盟春季テニス大会 (九州インカレ)	中川倫 シングルス4回戦/ダブルス2 回戦進出 二股翔太シングルス2回戦/ダブルス2 回戦進出
ジョギング 同好会	第28回出水ツルマラソン大会	出場 10km 深井大介・山本貴文 フルマラソン 山口一生・笹田実憲・上 條航平
	第6回ハウステンボスリレーマラソン	8位